研究室紹介

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター 虫・鳥獣害研究領域 鳥獣害グループ

農研機構中央農業研究センターは茨城県つくば市にあり，関東東海北陸地域の農業発展に寄与する研究を行っています。虫・鳥獣害研究領域に所属する鳥獣害グループは，作物保護を目的に病害虫研究分野と協調した研究推進体制を組んでいます。同時に野生鳥獣と人との利害（あつれき）問題や農村環境の課題を解決するため，各研究分野，行政等の関係者と幅広い連携を行っています。グループの研究職員は獣害担当4名，鳥害担当2名の6名で，東北農業研究センター福島研究拠点の獣害担当1名とともに，少ない人数で主に東日本の獣害対策と全国の鳥害対策を研究開発しています。

獣害研究ではシカの牧草地進入を長期モニタリングし，電気柵などの効果的配置や維持，管理課題の解決に努めています。また，アライグマ，ハクビシン等の中型獣による果樹被害対策として，被害を助長する廃棄果実の餌資源価値を明らかにしたうえで，これらを食べさせない圃場管理手法を研究しています。さらに，全国で展開されているニホンザル被害対策の効果向上を図るため，社会科学的研究を進めています。

鳥害研究では小型鳥類のうちヒヨドリ，ムクドリによる果樹，野菜被害の対策技術を開発してきました。現在，スズメ類の対策研究を進めています。また，最も被害が目立つカラス類については，鳥害実験用の野外大型ケージで飼育し，行動の解明や侵入抑制条件の把握，対策技術の改良試験に取り組んでいます。開発した防鳥技術は，パンフレットや設置マニュアルを農研機構のホームページに掲載しているほか，設置方法の解説動画を，機構がYouTubeで展開するNAROchannelに公開しています。

鳥獣害対策は，被害現場で農家自らが，直ちに行うことが最も有効と考えています。そのため，通常の農作業に組み込める被害対策を開発目標にしています。また，鳥獣害発生地域は，人口減少，高齢化が顕著な中山間地域に多く，労力の軽減や技術の簡便化も目指すべき要素となります。鳥獣害の試験研究は野外でしかできないことが多く，研究員は被害現場を駆け回っています。実証試験で農家から改良のヒントをお聞きしながら，到達すべき技術を追い求めています。また，現地の研修会などで対策の考え方や技術を間違わずに使う方法，手法の啓発にも努めています。今後はジビエ，スマート農業等の分野や，AI，ビッグデータ，ロボット活用等，新技術との連携による対策技術の開拓も進めていきます。

（鳥獣害グループ長　竹内正彦）

図-1　鳥獣害グループの主な研究対象動物
牧場に現れるニホンジカ，果樹園で廃棄イチゴをあさるアライグマ，ハクビシン，ハシブトガラス．

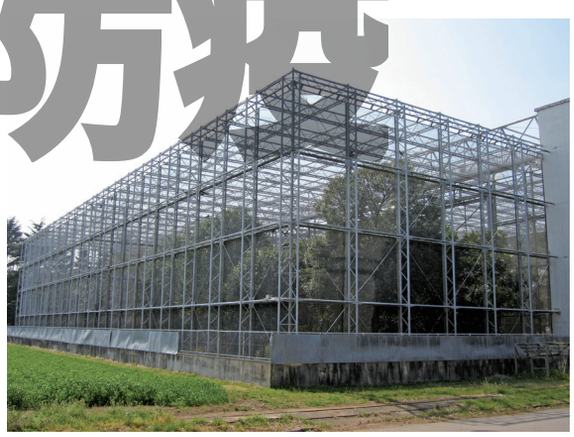

図-2　中央農業研究センターに設置されている鳥害対策実験用の大型ケージ
長さ60 m，幅40 m（写真はその半分），高さ12 m．

〒305-8666　茨城県つくば市観音台2-1-18
TEL　029-838-8481（代表）

植物防疫